

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム結ぶ)

事業所番号	0690800404		
法人名	庄内みどり農業協同組合		
事業所名	グループホーム 結ぶ		
所在地	山形県酒田市熊手島字道の下熊興屋17番1		
自己評価作成日	令和 7 年 11 月 10 日	開設年月日	令和 3 年 4 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「結ぶ」を念頭に、入居者のその人らしい生活が送れるよう、家庭的な環境のなか、自分らしさを活かせる生活を続けて頂けるよう努力しています。共に家事をしたり、軽体操を行うなど活動を広げていきます。広い敷地内に福祉センター・デイサービスが併設しており、同じ日の時間をずらした避難訓練。避難訓練後には一緒に消火訓練を行うなど協力体制を築いています。入居者は職員に見守られながら自宅に居た時と同じように、家事などの役割を担い生きがいのある毎日を過ごし、手作りする果実酒は食欲を刺激しています。職員研修は全国法人グループ間のオンライン研修システムを利用して同時に参加事業所間で意見交換を行います。また、法人グループのオンライン相互研修システムを活用し、複数事業所が同時に受講して意見交換を行うほか、参加できない職員も録画視聴により学べる体制を整え、全職員のケアスキル向上を図っています。利用者の意向を尊重した生活の実現を目指し住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 7 年 12 月 8 日	評価結果決定日	令和 7 年 12 月 25 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春には事業所向かいの旧小学校跡に咲く桜を楽しみ、冬には飛来する白鳥を眺められる環境に立地しています。食事の準備や後片付けなどの役割を担うことで、生き生きとした生活を過ごし、地域の蕎麦打ちなどの行事に参加しながら住民との交流を深めています。同一敷地内には関連介護事業所が併設されており、その強みを活かして避難訓練等で連携した取り組みを行っています。また、法人グループのオンライン相互研修システムを活用し、複数事業所が同時に受講して意見交換を行うほか、参加できない職員も録画視聴により学べる体制を整え、全職員のケアスキル向上を図っています。利用者の意向を尊重した生活の実現を目指し住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルーム掲示しており、職員会議で確認と読み合わせを行っている。また、申し送り後黙読している。			
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域行事へ参加している。今後は、事業所でも行事を行い、地域住民との繋がりを持ち、地域の一員としていく。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な所で行事に参加しているが、今後も可能な限り参加し地域に貢献していきたい。			
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を実施し、入居者の状況や活動の報告を行っている。運営推進会議の内容については、報告書を回覧し共有している。			
5		○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の高齢者支援課職員より参加して頂いており、その都度アドバイスを頂いている。			
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	他法人との相互研修で議題に取り上げ、正しく理解できるように努めている。 現在、日中の玄関施錠は行っていない。 身体拘束のない生活、安心・安全なケアを取組んでいる。	日中は玄関を施錠せずセンサーを活用して安全を確保し、防犯カメラを設置して見守りを強化しながら、拘束しない生活環境の維持に努めている。また、身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催して継続的に検討し、全国法人グループ事業所間の相互研修で職員の理解と周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	他法人との相互研修で議題に取り上げ、正しく理解できるように努めている。 月1回「不適切ケアチェック」を各自行い、日々のケアの見直しの機会を設けている。職員一人一人が、虐待防止に努め、入居者を一人の人として尊重することを心掛けている。	管理者は、気になる言動を確認した際は、グループホーム会議や委員会で不適切な例として取り上げ、職員が自ら気づけるように働きかけている。また、職員は毎月、不適切ケアチェックリストで自身のケアを評価して虐待に当たる行為がないか振り返りを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している入居者はいない。 管理者を含め制度の理解を含め、今後、必要な制度があれば活用できるようにしたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って内容を説明し、質問があればお答えしながら、納得された状態での契約の締結を行っている。 利用料金等の改定に関して、変更があればお便りなどで説明を行い、理解・納得に努めている。			
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が自分の気持ちを伝えやすい雰囲気作りと関係づくりに努めている。 家族については、面会時や電話等で意見や要望があればその都度対応している。	利用者の普段の会話から思いを引き出し、職員間で共有することで生活の質の向上に繋げ、レクリエーション等への参加を促す際は「やりたい」「やりたくない」といった意思を尊重している。また、家族等の意見や要望は、面会時や電話で様子を伝える際に丁寧に聞いて、サービスに反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの相談があれば聞くようにしている。 日常の申し送りに加え、パソコン上で業務・入居に関する申し送りを行っている。			
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員面談(見えるかシート・個人面談)が設けられている。 処遇については、年度初めに昇給もあり、年間休暇の他、有給休暇・希望休などでシフトの融通も考慮し、就業環境に努めているが、働きやすい環境は別問題な為、環境整備に努めたい。	職員は年1回無記名で記入した「見えるかシート」や上司との面談で現状や要望を伝える機会を得ている。また職員同士が協力しあい有給休暇・希望休の取得や体調不良等による勤務変更などのシフト調整を行い、夜勤専従者を置いて職員の生活環境に配慮している。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他法人との相互研修でのディスカッションが良い機会にもなっている。また、経験年数により、外部研修にも参加できるようにしている。	法人内の「介護職員ブック」を入職時の職員研修や事業所内研修で活用して介護の基本を身につけている。また、相互研修を毎月オンラインで実施して、担当事業所の取り組みをもとに意見交換したり、受講後のレポート提出で理解を深め、事業所全体の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他法人との相互研修を行うことで、お互いが学ぶだけではなく、交流の機会ともなっている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に事前調査を行い、本人の話、要望は勿論、家族・相談員・ケアマネ等から情報を伺い、職員が情報共有し安心した生活が行えるように努めている。 入居後も、環境に慣れていただくよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前調査時に家族から本氏に対する想いや、要望について伺い、関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホーム利用を前提で申込書を記入いただいている為、グループホーム利用が妥当か、他のサービス利用の可能性も併せて見極めるように努めている。</p>		
18	(6)	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>普段の生活の中でも、利用者が自分で選択できるような声を掛け、職員と一緒に活動しながら過ごしていただいている。</p>	<p>毎日の暮らしに利用者も役割をもって、楽しみ事を取り入れながらメリハリのある生き生きとした生活や喜びに繋げている。日曜日をレクリエーション活動の日にしてゲームやちよつとしたおやつ作りを職員と一緒に楽しんでいる。</p>	
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>通院や必要物品の購入等、家族に協力いただける事は積極的にお願している。 面会時や電話などで生活での相談があればその都度行い、共に支える関係性の構築に努めている。</p>		
20	(7)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会はマスク着用し、短時間ではあるが可能にしている。 面会の他にも、外出や外泊、電話・手紙等で個人の繋がりを継続できるように支援している。</p>	<p>家族等や知人は、電話連絡をすればいつでも居室で面会で外出も可能となっており、関係継続ができています。また、地域行事の蕎麦打ちなどに参加し、住民との交流を深めることで住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報共有し、入居者それぞれの特徴・関係性を把握している。 食席の配慮や、職員が懸け橋となる事で、入居者同士のトラブルなく過ごせるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への移動や、入院となった際に関しては、今までの生活での必要な情報の提供等行っているが、終了後の様子はプライバシーもあり、入居者・家族との関係の継続には繋がっていない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる方は希望や意向の聞き取りを行い出来る限り意向に沿えるように努力している。できない場合はできない事を説明し理解を得ている。意思疎通が困難な場合は、普段の生活から、仕草や行動等で、本人の訴えている事は何か感じ取れるように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に生活歴や入居前の暮らし方等、自宅訪問の際は可能であれば自室の環境の確認をさせていただき、家族やケアマネ、事業所からの情報収集し、職員間で情報共有できるようにしている。また、会話の中から本人の情報を聞き出すように努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活について記録に残し、職員間で情報共有している。			
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況で気になる事がある際は、その都度職員間で相談したり会議の議題に上げたりしている。計画更新時には、本人・家族へ提示し確認してもらっている。	入居時は事前面談の内容をもとにケアプランを作成し、毎月のグループホーム会議ではモニタリング(観察)結果から課題を検討し、必要に応じて見直しを行っている。更新時は日々の会話から利用者の思いを把握し、家族等からは面会時等に要望を聞きケアプランに反映している。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット使用し、その都度残す様にしており、情報共有できるようにしている。	勤務時間ごとの記録担当者がタブレットへ一括入力し、業務効率化と情報共有を図っている。職員は勤務開始前に利用者のデータを確認し、状態把握して受診時等の情報提供にも役立っている。業務内容により一部手書きメモも活用し情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の人員配置などにより、提供できるサービスにも限界があるため、当施設で完結出来ない場合は、たサービスとの連携も視野に入れる必要があると感じている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、回覧板を回してもらったり、参加可能な行事には参加している。現在もなかなか外部との触れ合いの場が持てていないが、入居者自身も地域の為となれるように支援できるように努めていきたい。			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が難しくなり訪問診療を利用している方もいるが、ほとんどの方は家族の協力により受診して頂いている。入居中の様子や状態の変化については、事前に医師に連絡を入れたり、文書を用意し、家族対応時でも医師へ伝わるように支援している。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は、記録に残しており、いつでも看護職員と情報共有できるようにしている。また、往診を受けている入居者もあり、その際に看護師に相談をする事もある。			
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要となった場合には、必要とされる情報の提供を行っている。退院許可が出た際には早急に実調に行くなどし対応している。	入院時は管理者及び計画作成担当者が入力されたデータをもとに介護情報提供書を作成している。入院中の状態確認や退院支援に関しては、医療機関と連携し歩行状態やグループホームでの生活が可能かどうか確認して今後の方針を検討している。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について施設の方針を説明している。本人の状態変化、施設生活での対応の変化を随時報告し、リスクなども合わせた上で家族と話し合いを行っている。	契約時に事業所の方針として、看取りは行っていないことや介護度が3になった時点で特別養護老人ホーム等への申請を依頼することを説明して理解を得ている。一般浴のため二人介助での入浴は可能だが、それもできない状態になった場合は、本人にとって最良の支援先への移行を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・フローチャートがあるが、実際の事故発生時に動けるかどうかと不安がある職員が前回同様多くいる。 職員間で意見を出し合い訓練を行う必要がある。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災想定避難訓練を実施している。水害なども増えてきている為、より地域との連携を強化していきたい。	1月と7月に日中火災時想定総合避難訓練を警備会社の協力を得て実施し、年初めには夜間想定訓練を予定している。また、事業継続計画の研修では資料をもとに職員各自の役割やライフライン停止時の対応、発電機の使い方などを確認し、備蓄も確保して災害時に備えている。	各居室にヘルメットも準備して災害時に備えていることから、さらには利用者情報(既往歴や服薬情報など)を加えた非常時持ち出しリュックなども準備しておくことが望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相互研修でもプライバシーを取り上げ、個人の人格を尊重し、人生の先輩として敬意を払いながら声掛けするように心掛けている。職員間でも声を掛け合いながら、プライバシーに留意した声掛け、対応を行っている。	家族等からの情報で得た本人の趣味やこだわりなどを職員間で共有し、呼び名や声掛けなどを統一してその方に合った対応に努めている。毎月の不適切ケアチェックの実施や会議で注意点などを話し合い、プライバシーを伴うケアには配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話等から、意思や希望を確認するようにしている。 声の大きさや説明の仕方に注意し、本氏が自己決定しやすいように努めている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそ、起床時間・食事時間・入浴日に決まりを設けているが、一人ひとりのペースを大切にしながら、生活にメリハリをつけて過ごしていただいている。	利用者主体の生活を大切にしながら、基本的な一日の生活リズムも大事と捉えている。朝の挨拶で始まり、食事への誘いなど利用者が自己決定できるような声掛けに努め、何気ない日常の会話の中で意向を汲み取り、その人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度や普段着選び等は、可能な入居者には自身で行ってもらっている。出張理容を利用したり、なじみの理容室へ通われたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は大まかに決まっているが、その日の気分や食べたい物・食材等に変更も自由となっている。行事には、食事を注文し特別感を出している。季節ごとに旬な食材を使用し、みんなで一緒に作ったりしている。	利用者にも好評な配食サービスを利用しながら朝食と昼食は調理専任の職員が担当し、夕食は在籍職員が提供している。行事食には豪華な仕出し弁当や寿司なども登場し、その季節ならではの郷土料理も喜ばれ、日曜日皆で作るおやつなども楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態・提供量など、個人に合わせて提供している。水分に関しても好みの物を提供し、選んでもらったり、ご家族様から協力いただき嗜好品を持参してもらったりしている。食事・水分量は日々記録している。			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け、誘導にて口腔ケアを行っていただいている。個人に合わせ、見守り・一部介助等を行っている。義歯は1日1回、夜間に洗浄剤にて洗浄行っている。	自分で歯磨きできる方もおり、毎食後声掛けしてセッティングなどのサポートをしながら口腔ケアを行っている。痛みなどのトラブルには家族等に歯科受診を依頼して早めの治療を促している。また食事前の声出しや口腔体操で誤嚥予防に努めている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方、声掛け誘導の必要な方と、個々に合わせ対応している。排泄間隔を確認しながら、前回の排泄時から時間が空いた方には声を掛けたり、誘導したりと対応している。	自立している方や定時誘導している方も排泄の確認をして状態を記録し、声掛けのタイミングや排泄用品の検討に活かしている。「トイレ」という言葉に反応する方には声掛けを工夫して、筋力強化の体操を取り入れトイレでの排泄行為が永く維持できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無について確認をしている。下剤が処方になっている方に関しては、医師の指示に従い服用していただいているが、普段から乳製品等の水分を多く摂ってもらうなど気を付けている。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設け、個々に対応している。その時々々の状況を最優先し、本人の希望に添うよう努め、入浴を楽しんでもらっている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝は生活リズムの為に起床を促しているが、その他は入居者に合わせている。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は個人ファイルから職員がいつでも誰でも確認できるようにしている。通院等で内容が変更になった場合には入居者担当職員が責任を持ち、申し送りにて情報共有している。	家族等との受診で持参した薬に変更があった場合は医師からの説明が伝えられ、疑問があれば薬局に再度確認して職員間の申し送りで共有している。薬は利用者の担当職員が責任を持って管理し薬剤情報書で内容を理解すると共に、服用までに複数の職員がチェックして誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯物干しや畳み・調理の手伝い・盛り付け・片付けなど、日常生活で役割を持って行っている。 外出ドライブや天候の良い日は施設周辺を散歩している。 今後は、外食がしたい。との声も上がっている為、検討していきたい。		/	
49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出・外泊・地域住民との交流の場も少しずつ増えている。 外出・外泊の希望があれば行っていただいている。 受診後はご家族と買い物を楽しまれたりしている。 地域行事へも参加出来るのであれば、積極的に参加している。				
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理されている方もいる。その方に関しては、契約時に家族・本人に説明している。 他の入居者にも「預かり金」として居室の鍵付き引き出しで管理している。必要物品の購入時や、出張時、外出時の使用等、本人・家族に声を掛けて使用している。				
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所有されている入居者もいるが、家族から電話があった際は本人へ取り次いでいる。 手紙に関しては、希望の入居者に関しては、家族と話し合い行っている。				
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごしていただくため、温度調整や環境整備を心掛けている。 季節感が感じられるような工夫が今後は必要かと感じる。		床暖房を施したホールは過度な装飾はせず落ち着いた雰囲気にして、利用者同士の相性に配慮した食席やテレビの前のソファで談笑する日々を送っている。ホール続きの畳スペースでは洗濯物干しなどを職員と一緒にを行い、ガラス張りのスタッフルームからはホールの様子が見え、防犯カメラと共に安心できる造りになっている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し交流できるようにしたり、和室でゆっくり外を眺められるように椅子を設置するなどの配慮を行っている。		/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのものもあるが、自宅で使っていた馴染みの物を持参して頂き使用している方もいる。入居時に家族と配置を決めたりと、ご自分の部屋として安心して過ごしていただけるように配慮している。</p>	<p>居室の備品としてベッド・マット・クローゼット・整理タンスがあり、ベッドは本人が寝起きしやすくエアコンの風やテレビの向きなどを考慮して設置している。窓からの景色に季節の移ろいを感じ、馴染みの物を持ち込んで自宅のように過ごしている。また転倒リスクのある方はセンサーや夜間ポータブルトイレを使用して安全面に配慮し、防災用ヘルメットを入口に準備して災害時に備えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者も介護度や認知症の進行などにより、状況が変わってきている為、身体に合った環境に整えながら、自立した生活が送れるように、時には、福祉用具等も活用している。</p>	/	/